

発明の名称: 神経細胞の軸索の伸展剤

利用・用途・応用分野

前頭側頭型認知症、アルツハイマー病、ポリグルタミン病、ダウン症等神経変性疾患の予防または治療用医薬

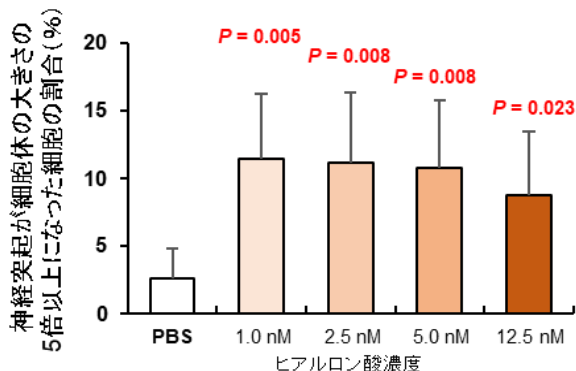
目的・課題

神経変性疾患の根治を可能にする薬剤の開発が切望されている。
神経細胞の編成を防ぐ機能と効果を持つ新たな物質の発見を目的とし、神経細胞内の凝集タンパク質の形成を抑制可能な新たな物質の提供を課題とする。

解決ポイント

- ◆ 治療薬開発研究のターゲットを最初からタウタンパク質やその他の神経細胞内に凝集体を形成するタンパク質に定め、凝集を抑制する薬剤の探索を行った。
- ◆ 同時に認知機能の回復に重要な軸索の伸展や保護、新たに軸索を生じさせる薬剤の探索も行った。
- ◆ 本発明のタンパク質凝集抑制剤は、神経細胞内におけるタンパク質凝集抑制剤であり、タウタンパク質または、ポリグルタミンタンパク質である。
- ◆ 多糖類であるヒアルロン酸が凝集体形成を抑制し、軸索の伸展を促進する、両方の機能を持つことを見出した。

ヒアルロン酸の添加によって
軸索の伸展が亢進する



研究概要・アピールポイント

- ◆ ヒアルロン酸は認知機能の回復に働く可能性を持っている。
- ◆ ヒアルロン酸が、複数の神経変性疾患の治療に非常に効果的な薬剤として、あるいは根治にまでつながる薬剤の開発に、他の新規の薬剤に比べ短期間でつながる可能性がある。
- ◆ ヒアルロン酸またはその薬学的に許容される塩を含む神経細胞内における凝集タンパク質の形成を抑制することができる。

◆ お問い合わせ先 ◆

有限会社山口ティール・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail: tlojim@yamaguchi-u.ac.jp